

東京税関コンテナ貨物検査場

資料 4 - 3
関東地方整備局
事業評価監視委員会
(平成19年度第4回)



平成20年1月23日 国土交通省関東地方整備局

目 次

1 . 事業概要

案内図

コンテナ貨物検査場での業務概要

事業実施前の状況

事業の目的

施設概要

工事費の内訳

整備状況

2 . 効果の発現状況

CASBEE指標評価

環境負荷の低減

その他の効果

3 . ま と め

1. 事業概要

案内図



(写真提供) 東京港湾局



【平面図】

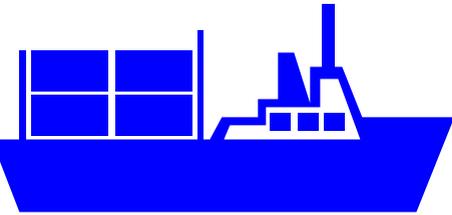


コンテナ検査場での業務概要

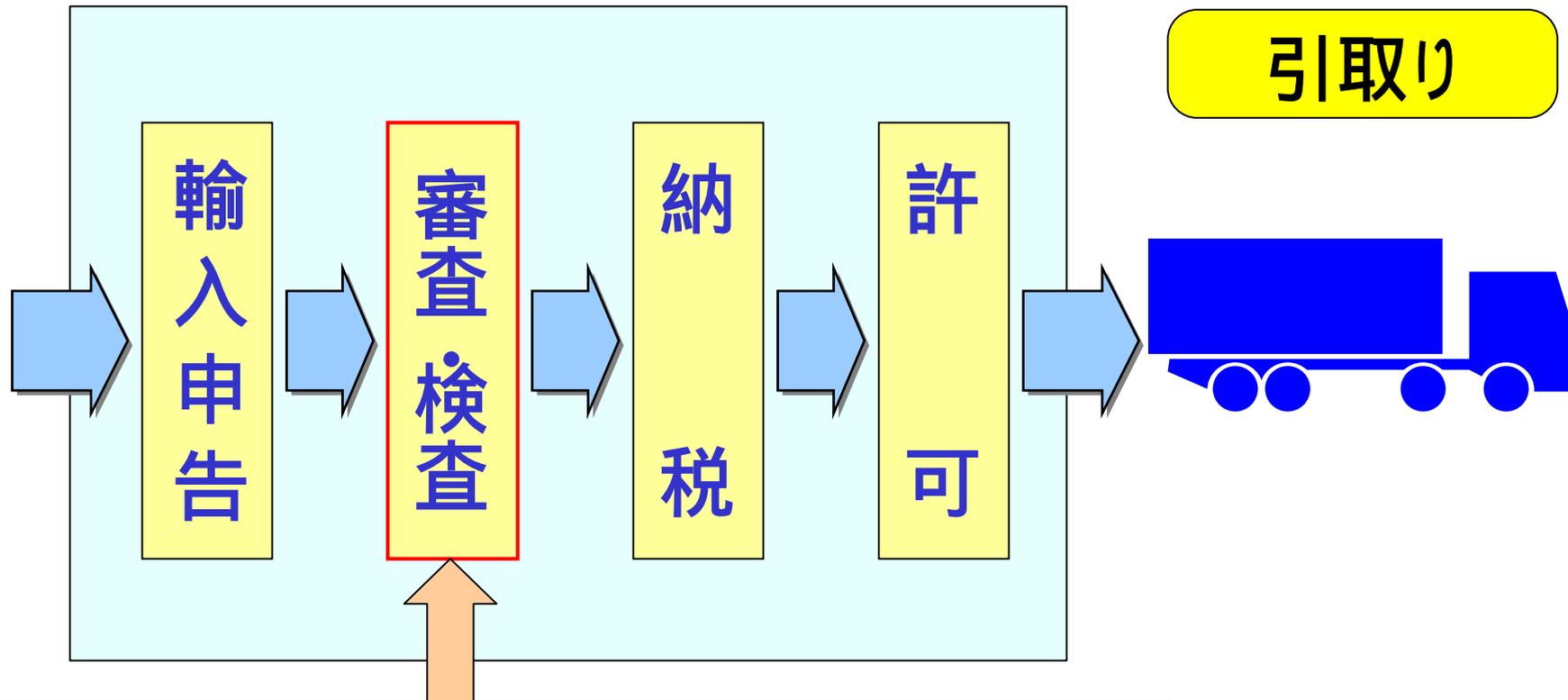
【輸入貨物の通関の流れ】

貨物を輸入する際には、税関に輸入(納税)申告を行い、税関が検査を必要と判断した貨物については、必要な検査を受け、輸入の許可を受けなければなりません。

船卸し



(写真提供) 東京港湾局

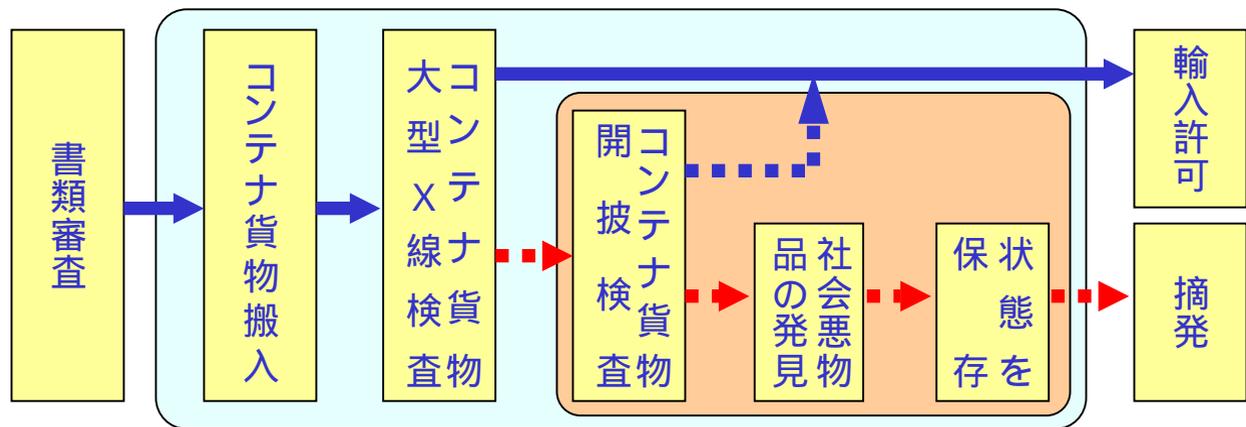


引取り



この検査は、社会的悪物品の流入を阻止し、貿易の秩序を維持するとともに関税等の適正な徴収等を確保することを目的としている。

【東京税関コンテナ貨物検査センターでの検査の流れ】



大型X線検査状況



開披検査状況



事業実施前の状況

施設の不備

社会的背景

東京港における外貿コンテナ貨物の増大

新総合物流施策大綱の策定(平成13年7月閣議決定)

・入港してコンテナヤードを出る日数の短縮

東京税関には、独自のコンテナ貨物開披検査場が整備されていないため、コンテナ貨物大型X線検査で異常が確認された場合、別地で開披検査を行っていた状況。

問題点

コンテナ貨物移送の手間が輸入業者に発生。
出張所から検査職員を派遣する手間が発生。
検査中における検査職員の事故のリスク。

事業の目的

施設不備の解消



新規事業採択時評価で評価済み
(本省で実施)

コンテナ貨物検査場を整備することで、コンテナ貨物大型X線検査装置による検査において異常が確認された場合、速やかにコンテナを開披検査し、迅速な対応が可能となる。

施設概要

敷地面積：約19,934㎡

延べ面積：約3,444㎡

(事務スペース1,648㎡、検査スペース1,796㎡)

構造：S(一部SRC)-2

設計：平成15年3月～平成15年12月

工期：平成15年9月～平成16年10月

総事業費：約10.7億円

工事費の内訳

単位：百万円(税抜き)

項目	工事費
事務スペース	393
検査スペース	449
特殊な仕様及び設備	47
外構整備等	49
その他	21
合計	959

	延べ面積1㎡ 当たりの工事費	延べ面積	工事費
東京税関 (事務スペース)	約24万円	1,648㎡	393百万円
民間建築物	約24万円	-㎡	-百万円

建築着工統計から計算した民間発注の事務所ビル(RC造)の工事費の平均単価22万円/㎡に、公共建築物であれば同時に発注される工事(小部屋の間仕切り、書架等)の費用2万円/㎡を加えたもの

【工事費の内訳】

項 目	工事費 (百万円)
1. 事務スペース	393
2. 検査スペース ・ドライ及び冷凍・冷蔵貨物検査スペース	449
3. 特殊な仕様及び設備 ・環境負荷低減対策 太陽光発電設備【10】 ・高度なバリアフリー EV【11】 ・特殊な設備 自家発電設備【20】、映像音響設備【6】	47
4. 外構整備等 工作物【6】、植栽【7】、外構【36】	49
5. その他 渡り廊下【20.5】、X線検査棟改修【0.5】	21
合 計	959

整備状況



外 観



ドライ貨物検査場



冷凍・冷蔵貨物検査場



事務室



上級室

2. 効果の発現状況

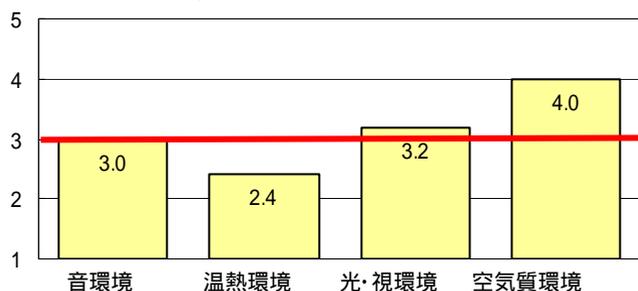
CASBEE指標評価

Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ= 3.1

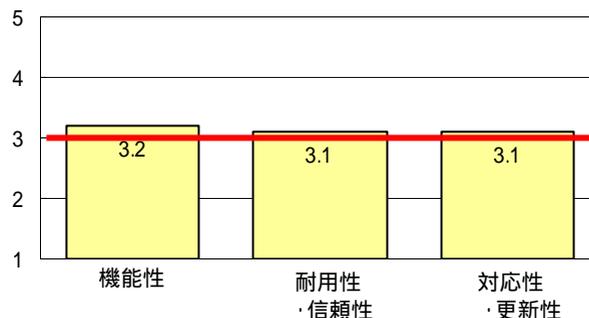
Q-1 室内環境

スコア(評価点): SQ1 = 3.1



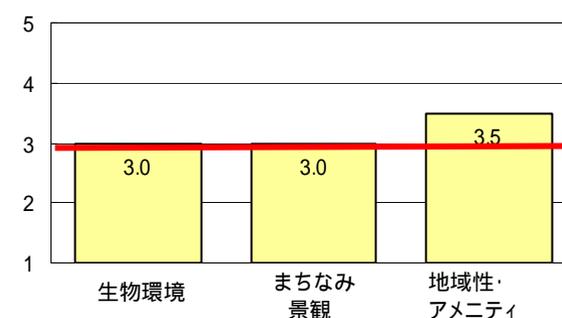
Q-2 サービス性能

SQ2 = 3.2



Q-3 室外環境(敷地内)

SQ3 = 3.1

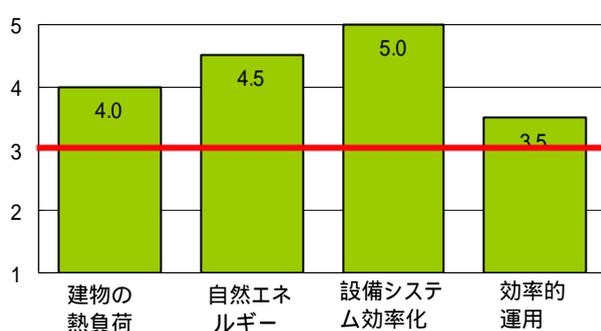


LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

SLR= 3.6

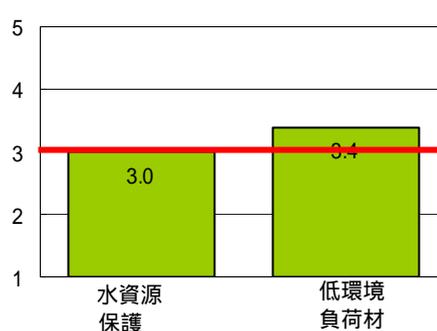
LR-1 エネルギー

スコア(評価点): SLR1 = 4.3



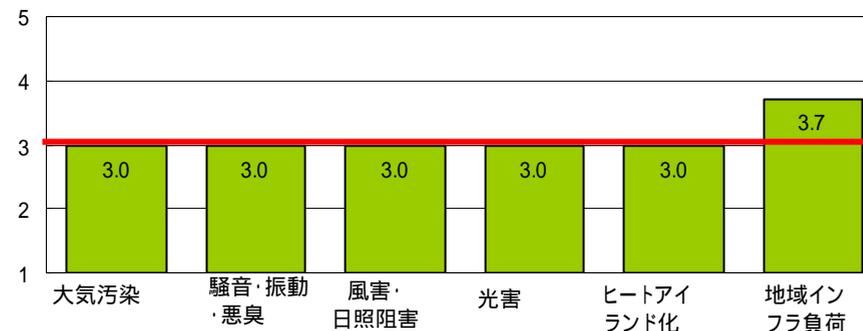
LR-2 資源・マテリアル

SLR2 = 3.3



LR-3 敷地外環境

SLR3 = 3.1



環境負荷の低減



太陽光発電設備の設置

その他の効果

【東京税関職員にヒアリング調査】

東京税関貨物検査場に関しては、新設の案件であり既存施設が存在しないため、通常行うアンケート調査の既存施設から新施設への向上性については調査できないため、東京税関コンテナ貨物検査場が整備されたことによる効果を、代表職員へのヒアリングを行い調査した。

利用者の利便性の向上

- ・輸入業者の移送の手配や費用の負担がなくなった。

検査業務の効率性の向上

- ・当施設に検査職員を配置することにより、移動負担の軽減を図ることで、効率的な検査業務が可能となった。
- ・X線検査で異常が確認された場合、速やかに開披検査できるようになった。

検査職員の安全性の確保

- ・東京都港湾局から使用させてもらっていた貨物倉庫では、フォークリフトの往来が激しく、検査中における検査職員の事故のリスクがあったが、開披検査を目的とした開披検査場を整備することで安全性が確保された。

3. まとめ

施設不備の解消

コンテナ貨物検査場の整備により、コンテナ貨物大型X線検査装置による検査において異常が確認された場合、速やかにコンテナを開披検査し迅速な対応が可能となった。

適正な価格での整備

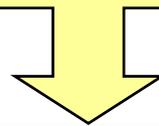
工事費の内訳及び検査場(事務スペース)の延べ面積1 m²当たりの工事費から、適正な価格で整備されたと判断できる。

基本的性能を満足する整備

CASBEE指標評価により、基本的性能を満足する整備がされたと判断できる。

その他

ヒアリング調査より、利用者の利便性向上、検査業務の効率性向上、検査職員の安全性の確保が図られた。



事業の目的を果たしているため、再度の事後評価の必要性及び改善措置の必要性はないと考えます。